



TITLE:

社會問題評論

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 社會問題評論. 經濟論叢 1919, 9(4): 610-614

ISSUE DATE:

1919-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/127575>

RIGHT:

社會問題評論

神戸 正雄

(九) 勞賃の性質の變化と勞働者の義務

從來勞働は一の商品とも認められ、其勞働は其仕事に對する報酬と認められ、其高さは勞働に對する需要供給の關係に依りて定まり、隨ふて

は其高さが時に勞働者に十分なる生活資料さへ供するに足らぬことのあり得る所であつた。然るに最近の巴里の國際會議では國際勞働の大原則を承認し、其第一項にて人的勞働は權利上將た事實上、商品又は賣買目的物として取扱はれざるべき事、第四項として各勞働者は其國及其時代の文明に適應して相當なる生活程度を維持するに足る賃金を受くる權利を有することを定めた。此新原則に依れば、勞働者が其勞働を資本家との間に賣買するのでなくして、恰かも彼が社會の或役目に就きたるが如き關係となり、之に就きたる以上は相當生活資料を得るに足るだけの賃金を當然に得らるゝことになつた。斯くて勞働者の地位は資本家對等に高められた譯であり、其生活の保障も得られた譯であるが、其であるからといふて、勞働者が我儘のみいひ怠慢に陥つてはならぬ。斯くては資本家も立行かなくなり、生産の結果も小くなり、勞働者の自滅ともなる。唯物的に考へても愚なることになるが、之を精神的に考へても、勞働者が社會

に對して甚だ相濟まざる譯である。人は其地位の高くなり、待遇の良くなつた以上は、一層出精して之に酬ある所がなくてはならぬ。從來、官吏の俸給が其仕事に對する報酬といふよりはむしろ其地位に相當なる生活維持の材料と見做されて居た。恰かも新原則に依る勞賃の如くに扱はれた。併し其の官吏の俸給が右の如くに扱はれたのは、彼が他を顧みず、服務規律の下に不斷、専心其職務に従事する前提の下に於てであつた。其處で、今度、勞働者の勞賃の性質の變つたといふに就ても、勞働者が單に利己的の考のみに耽り、出来るだけ怠慢に流れてはならぬ。其の社會上の高き地位、大きな權利の反面に、其の十分の義務を自覺しなければならぬ。社會奉仕の心掛を持つて全力を注いで勉勵しなければならぬ。他方に團結權や、勞働時間の短縮等も定められたが、之とても決して濫用してはならぬ。高き奉公の精神から良く其權利又は地位につき自覺しなければならぬ。近頃學者有志家が世界の大勢の變化、國際勞働協定の

條項を勞働者に教ふるは良いが、其教方が惡かつたか、聽き様が惡かつたか、勞働者が兎角、要求のみ多く持ち出して怠慢に流れる傾を認むる、太だ遺憾である。私は從來兎角壓迫された勞働者に大に同情するが、斯くて新時代精神を惡解して其職分を忽にする勞働者には少しも同情しない。私は勞働者の反省を求めて已まない併せて學者有志家の注意をも望む。

一〇資本家の勞資協調運動

政府と資本家との發意に成る所の勞資協調會は成立した。其にて社會政策上の諸施設の調査を行ひ、且つ實際にも之を行ふといふのは敢て惡しと爲さぬ。特に勞資の協調の趣旨甚だ賛成である。たゞ此にて勞資間の争を仲裁しやうといふのは、果して甘く行くであらうか。協調は理想としては良いが、偏資本家的の團體の力にて果して、勞働者を満足せしむるに足る所の決定が出来らうか。私は斯かる團體としては、社會的施設の研究調査と、資本家として爲すべき施設を實行すれば足ると思ふ。爭議の裁斷は

公平なる獨立裁判所に任かすべきものと思ふ。此仕事だけは此會の事業から除いたがよい。尤も此が發起者は此會に皇室を奉戴して、其御稜威を假りて抑へやうといふのらしいが、此は資本家の計畫する最大の罪惡である。累を皇室に及ぼすこと夥しい。考へ直したが良からう。

(一) 社會公德心の養成

權利の要求の盛になつたのも此も當然の成行で私は一部の人々のやうに之を悲觀はしない。併し之と共に義務の履行を十分にするやうに心掛けて欲しい。其は個人が個人に對しての義務のみでなく、社會又は公に對しての其を十分に盡して欲しい。勞働者が資本家企業家に對し小作人が地主に對して其義務を果すのみならず、國家に對しての納税の義務は勿論、公の場所に出たときは人々に不快を懷かせ、又は人々に迷惑を掛けざることの心掛があつて欲しい。處が此公に對する義務の履行に至つては、我邦では甚だ不完全である。公園や路傍の木を折る。道路に紙屑、果物の皮を棄てる。痰を吐く。車特に

自動車を通り掛つても殊更に道を塞ぐ。通行人の批評惡口をいふ。路上にて高談放歌し、路傍に大小便を爲す。其他、電車汽車に乗降の際、芝居寄席の歸掛けなどの押合ふ様も亂暴である電車汽車内にては老幼婦女病人不具者等には席を譲るべきであるに、平氣で譲らぬのみか、之を押し除ける。汽車の中では男子のみならず女子までが、平氣で裸體に近き處を人に見せる。甚しきは人込の時に、假眠をして數人分の席を塞ぐ。或は傳染病を隱匿し、其の汚物を河川にて洗濯する。凡そ此等は人々の智識の缺乏にも依るが、今日の如く教育の普及した時世に、智識の缺乏により辯護する餘地は少い。何うしても人々の公德心の不足に歸さなければならぬ。教育にても智育に偏して、德育を忽にし、德育にても、非常道徳に偏し、日常公德を忽にした結果に外ならぬ。教育者は向後、此方に力を用ふることか肝要である。今の儘では日本は文明國とはいへない。外國人に對しても甚だ恥しい。社會改良は決して賃金の増加や、其他の

勞働條件の向上や、貧乏人の福利を増進するのみではない。此風俗慣習道徳の改造にも大に爲すべき方面があることを忘れてはならぬ。

(二) 酒と賣笑婦

近頃は日本にても禁酒運動者が仲々活動し出したことは愉快である。凡ての社會上の困難にして酒に關係せざるは少い。貧困、疾病、不和等の直接間接原因は酒にある。酒を飲む人は自らを傷け、世を害するの罪、甚だ輕くない。特に米を原料とする日本の酒は食料問題にも關係がある。で私は之が使用の慣習上、並に進んでは法律上にも制限又は禁止さるゝに至らんことを望むものである。其れと共に今日、多くの國にてそして日本にも存在する賣春婦の撲滅を計りたい。將さに勞働者の勞働すら商品に非ずてふ原則を認めんとする時世に、節操を賣り、人格を傷くること甚しき賣春婦の認めらるゝことは甚だ不都合である。特に其本人と買手とのみの關係ならば、まだしもであるが、第三者たるものが彼女の賣節を利用して營利を爲すに至て

は太だ許すべからずである。之を許す所の現代の營利組織は不道徳なる組織である。人々は目慣れては其穢に氣付かない。冷靜に考へて見るが良い。

(三) 生活方法の改造

近頃は物價が益々上る。此は世界的だから仕方がないなど、呑氣に構え、平氣で居るのが、日本の政府であるが、米國などでは官民とも之に注意し、之が抑制政策を施した結果、今は少々下り掛けて居る。日本の政府も早く此に力を入れないと、騷動の斷えないことに氣を着けなければならぬ。近時同盟罷業や同盟怠業が各所に起るといふのも、勞働者の階級自覺からのみ來たのではなく、動機は此物價騰貴にある。此が一の有力なる口實になつて居る。加之、此物價騰貴は獨り勞働者の勞働運動を刺戟するばかりでなく、精神勞働者階級の不安をも促して居る。此が又ボツ／＼破裂しつゝある。そして此が窮乏の極に達すれば、到底押へ切れなくなつて、勞働者と同事を行ふやうにもなる。さう

なつては社會の混亂である。政府も今は勇氣を出して、斷乎たる政策を物價騰貴防止の上に採らぬと飛んだ事になるものと覺悟しなければならぬ。併し又精神及肉體勞動者側も唯だ、他

力を頼んで其生活の向上又は維持を計るのみならず、自奮自制をも行つて此戦後の經濟界の難關を切抜けなければならぬ。其は結局此生活方法の改造といふことである。從來の無駄の多い生活方法を改めて、有功なる消費方法を工夫することが肝要で、衣住の改良も必要ではあるが、取分け食物の共同大量供給の組織を工夫することが緊要である。日本人には贈答、葬婚などに關する冗費の節約の餘地が大いこといふ迄もないが、日常の生活費の中には何といつても食物費が最大いから、之を切詰めて有功に消費することを考えなければならぬ。今其方法を一々はいはないが、此方に切角力を用ゐたらば良からうと思ふ。物價騰貴は慶すべきことではないが、各人に生活改良を促す一の好機ではある。其は洵に高い代價ではあるが、然ういふ風に見

れば幾らか慰めることが出来る。さりとて其あるの故に政府が物價政策を放心して居て足るといふのではない。